

概要・目的

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、平成30年度をイメージして協議する。

P

平成29年度の当初計画

取り組み①

平成30年4月中学校開校に向けての準備

- ・広報活動（グローバル教育シンポジウム・学校説明会・体験セミナー、パンフレットなど）
 - * H29年度 7月、10月実施予定
 - * セミナー年間4回（5月6年生、6月5、6年生、8月、11月5年生以下を予定）
- ・IBワークショップ運営
 - * 高知県にてH29年8月16日～18日にMYP全教科とTOKを予定（6月15日現在 約100名申込み）基本的に県内教員には文科省の助成有り。
 - * 管理職は12月ワークショップを開催し参加予定
- ・開校に向けた事務手続き、物品準備、教科書選定等
- ・入学生の把握、サポート
 - * 中学生理解の研修（年間4回）
 - * 合格者を対象に小学校からの引継ぎ（3月中）

IB取り組み②

授業（MYP/DP）研究

- ・テーマの決定およびユニットプランナー作成と実用化に向けた研修
 - * 作成、第1稿完成（中1：6月、中2：3月）
 - * 講師を迎えた研修（年間4回）
 - * 高知南中学校にて理科の授業研究（2学期）
- ・総合的な学習の時間（個人研究）に向けた指導計画
- ・IB教育の研究と理解促進
- ・東京学芸大学附属国際中等教育学校における研修

取り組み③

IB（MYP/DP）候補校、認定校申請準備

- ・平成30年4月1日候補校申請に向けての申請準備
- 12月：教育委員会内決裁 2月：申請費用支払い
- アドバイザーによる定期的な内容確認

取り組み④

英語力強化の研究

- ・MYPの実践を通じた英語力の定着
- ・幅広い学力層に対応する手立て
- ・英語ネイティブのサポート
- ・教科横断的な学びを意識した指導計画
- ・英語に親しむ環境づくり

D

平成29年度の取り組み状況

取り組み①

- ・「IBと学校の理念の一致」を軸に各規約、カリキュラム、行事等を検討。
- 【広報】
- ・学校説明会： H28年度2月730名、3月650名。
 - ・体験セミナー： H29年度5月6年生60名。6月5、6年生168名に実施。H28年度5、6年生を対象に5回延べ600名に実施。
 - ・パンフレット、HP等：H28年度に第2号パンフレットまで発行。
 - ・平成29年7月学校HP立ち上げ
 - ・高知西高校内での高知国際中に関する検討事項相談や決定事項の共有。廊下掲示物などによるIBに関する理解促進。
- 【ワークショップ】
- ・IBワークショップ：H29年夏までに、高知南中学校、高知西高校籍の教員から、MYP全教科講座2名以上受講（英語ネイティブ講師2名を含む。）教員志望の学生にセミナーやワークショップのボランティアを依頼し手への意識啓発
- 【サポート】
- ・中学生理解についての研修：講師：高知大学鹿嶋真弓准教授
平成28年度4回。平成29年度5月実施。あと3回の実践研修は日程調整中
 - ・高知南中学1年生対象の合宿（4月）や授業（英語、数学、理科）を参観

取り組み②

- ・中学1年生全教科ユニットプランナー完成（6月）
- ・クインシー亀田氏による指導のもと、精度を上げ、開校後も持続するための研修を実施。（4月、5月）
- ・高知南中学校での授業に向け、教科担当や探究型授業の推進についてミーティングに参加。（5月理科研究授業参加、6月打ち合わせ）
- ・ISS長期派遣教員7名（国語2名、数学1名、理科1名、英語1名、体育1名、美術1名）研修中。（H28年度までに英語1名、理科1名、社会1名終了）
- ・H29年度より短期派遣研修実施（デザイン、音楽、英語・学校運営全般）
- ・道徳、外国語教育、次期学習指導要領の改訂ポイントなど新情報を得ながらMYPの中での効果的な実践を検討

取り組み③

- ・申請書、アクションプランは決定事項を加筆しながら作成（日本語・英語）
- ・クインシー亀田氏を迎え、内容の確認を兼ねた学習会を実施（4月、5月）

取り組み④

- ・小中高の学びの接続を意識した教材研究（小学校外国語の方向性、高知県、高知南中学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校の研究内容、教材等の情報収集等）
- ・小中学校の授業参観と協議への参加（5月高知南中学校、6月久礼小、久礼中学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校での短期研修1）
- ・基礎力を補う手立ての研究（副教材検討、補助教材や情報の収集）
- ・総合的な学習の時間（個人研究）を支える教科横断的な英語指導の計画

C

A

課題（●）と今後の取り組みの方向性（→）

取り組み①

- ・県の教育をリードするモデル校としての役割、また、公立のIB校としてのスタンダードを示す役割の再確認。
 - ・訪問時のインタビュー（管理団体である県教育委員会や、学校の管理職、教員、職員、生徒や保護者にもインタビューがある）に備え、IBの理念の理解を促進し、その誠実な実施のための準備をすること。
- 複数の組織間（高知国際開校準備室、高知西高、高知南中高、県教育委員会事務局各課）でのミッションの共有
 - 日本の一校であり、県立であることのミッション。IBのプログラムを適切かつ効果的に実践するというミッション。これらのミッションの達成水準を共有。統合が完了するまでの期間の捉え方を整理。
 - 評価の在り方、学力観を子ども・保護者と共有
 - 入学前の説明会やセミナー、HP等で先進校での事例などに学びながら子ども・保護者にわかりやすく説明。学力観の共有。
 - IBワークショップや学びの場に参加を促進
 - 次期学習指導要領と方向性が一致するIB教育を学ぶ機会をもつことで、県全体への還元が期待できる。12月開催のワークショップに中高担当の指導主事の参加を依頼。

取り組み②

- MYP・DPを見通したカリキュラムの研究
- DPの指導者、特に英語で指導できる教員の育成や雇用。IB教員養成の大学に情報提供など協力を依頼
- MYPにおいてもベースとなるTOKの学びの場を校外外で実施
- 高知南中学校での理科授業研究（7月打ち合わせ、8月、9月計3回授業研究）

取り組み③

- スムーズな申請業務の遂行
- 担当組織間の協議の時間を十分とることができないため、より具体的な説明をする。
- 定期的に外部アドバイザーに確認をとりながら仕上げる。

取り組み④

- 県内小中学校の実態把握と研究内容（IB）の共有
- 学校訪問、授業参観、研究協議への参加。小中高連携事業で中土佐町、南国市内の小中学校での授業研究。これらを通して事務局指導主事とIBに関する情報共有。
- 東京学芸大学附属国際中等教育学校短期研修Ⅱ。札幌開成高等学校視察、聞き取り。
- 副教材や英語学習アプリケーションの選定、授業教材作成、英語学習環境づくり
- 入学者について小学校との引継、高知国際中教職員で情報共有。
- 開校後、保護者ワークショップなどによる家庭との連携。

平成29年度 到達目標

- ・IBMYP候補校として認定を受けるに値する準備を3月までに完了（申請書類の完成は2月予定）
- ・地方の公立学校がIB教育を実践することの意味をより具体的に県民に理解してもらう
- ・県全体への還元を目ざし、IB（特に評価）について県内教員に学びの場を設定